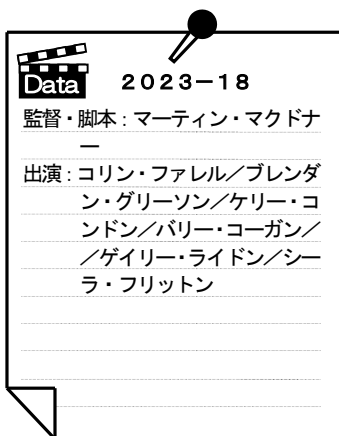




## 👁️👁️ みどころ

イニシェリン島ってどこにあるの？そこには本当に精霊がいるの？そんな疑問から始まる本作のテーマは中年男2人の仲違いだから、アレシ。それで一本の映画になるの？

いきなりの絶交宣言から始まる本作は、舞台劇のような会話が面白い。島ではパブが唯一の社交場だが、そこに集う男たちの生態は？また、周囲からの2人へのアドバイスは？

「これ以上俺を煩わせたら、自分の指を1本ずつ切ってくれてやる！」こんな宣言はきっとハッター！誰もがそう思うはずだが、いやいや、本作の展開は？2人の対立はどこまでエスカレートしていくの？そして、その中、“イニシェリン島の精霊”は如何なる役割を？

## ■□■ヴェネチアで二冠！タイトルの意味は？その絶景は？■□■

本作は2022年ヴェネチア国際映画祭で脚本賞、ヴォルピ杯男優賞の二冠を獲得したそうだが、イニシェリン島って一体ナニ？そもそもその島はどこにあるの？また、マーティン・マクドナー監督って誰？そんなふうに、本作は主演男優のコリン・ファレル以外は知らないことだらけだが、マーティン・マクドナー監督は、世界中を熱狂させた、『スリー・ビルボード』（17年）『シネマ41』（18頁）の監督。舞台になるイニシェリン島は、アイルランド西海岸沖にある（架空の）島。そして、時代はアイルランド内戦が始まった1923年だ。

『スリー・ビルボード』はアメリカ・ミズーリ州の田舎町を舞台にした映画だったが、マクドナー監督の出身地はイギリスのロンドンだから、イニシェリン島の原型とされたアラン諸島は、マクドナー監督にとっても馴染みのある島らしい。もちろんイニシェリン島

は架空の島だが、そのイメージをスクリーン上に表現するためには、絶好のロケ地を選ぶ必要がある。しかして、アイルランドの西の海に浮かぶ、3つの島からなる人口合計約1,200人ほどのアラン諸島は、その条件にピッタリだったらいい。本作導入部では、そんなイニシェリン島の絶景をしっかりと目に刻みつけたい。

以上のように、イニシェリン島についてはわかったが、タイトルのもう一つにされている“精霊”とは一体ナニ？

## ■□■テーマは中年男2人の仲違い！それで1本の映画に？■□■

ヴァイキングをテーマにした『ノースマン 導かれし復讐者』（22年）は寒々とした北欧の島を映し出すシーンから始まったが、それは本作も同じ。1923年、アイルランド本土では激しい内戦が始まっていたが、その西海岸に浮かぶイニシェリン島はのどかな平和が保たれているらしい。そんな島内で、妹のシボーン・スーラウォーン（ケリー・コンドン）と2人で暮らす中年男パードリック・スーラウォーン（コリン・ファレル）は、小さなロバのジェニーを可愛がる、誰からも愛される男。そんな彼の日課は、午後2時にパブに行って、親友の中年男コルム・ドハティ（ブレンダン・グリーソン）とたわいのないお喋りをする。なるほど、なるほど。

そんな島の設定は、今の日本で言えば、さしずめ、長崎にある五島列島・・・？瀬戸内海の島では小説『二十四の瞳』（52年）の小豆島が有名だが、小豆島はイニシェリン島に比べると大きすぎる。また、南西諸島は沖縄に近いので、“台湾有事”における軍事戦略上重要な島として現在は自衛隊の増強が進められているから、アイルランド内戦になってもなお平和とのどかさを保っているイニシェリン島とは大きく異なる。本作では、まずタイトルにされているイニシェリン島のそんな実態（？）をしっかりと理解したい。

パードリックは今日もいつものようにコルムをパブに誘おうと家に寄ったが、なぜかドアは閉まったまま。窓から中を覗くと、コルムは椅子に座ってタバコを吸っていたから、パードリックの来訪はわかっているはずだが、なぜか返事が一切ない。うえ、ドアも開けてくれないから、アレレ・・・。一体どうなっているの？本作はそんな中年男の仲違いから始まるが、それだけのテーマを1本の映画にしているので、それに注目！

## ■□■“絶交”の理由は？その理由の合理性は？■□■

肉体的にも精神的にも変化が大きいため不安定にならざるを得ない“思春期”にあっては、昨日まで仲の良かった親友と、ある日突然何らかの理由で絶交してしまうことはよくあること。そして、それは男同士よりも女同士の方が顕著だ。もし、ある日突然一方からそんな絶交宣言を受けた場合、他方は戸惑いながらも納得せざるを得ないものだが、時としてその理由を聞くことがある。それに対して、「他にいい友達ができたから」、「お前の〇〇や△△が嫌になったから」と説明されると、渋々ながらも納得感が強まるものだ。

ところが、本作では、「俺が何かしたなら言ってくれ」と説明を求めるパードリックに対して、コルムが述べた絶交の理由は、「何も言っていないし、してない。お前が嫌いになった」

だから、アレレ。さらに、その後困惑したパードリックが改めて理由を問い詰めると、コルムは「お前のつまらん話に時間を取られたくない」と冷たく言い放った。これはつまり、老境に差ししかかったフィドル弾きのコルムは、「残された人生を有意義なものにするため、作曲と思索に没頭したいから、暇人のパードリックの相手をするのは無駄だ」というものだからすごい。しかし、この絶交理由の合理性は？

### ■周回のアドバイスは？絶交宣言の延長は？こりゃ怖い■

本作の主演はパードリックとコルムだが、準主役としてパードリックの妹のシボーンと、パードリックの隣人で、ちょっと風変わりな若者ドミニク・キアニー（バリー・コーガン）が登場する。シボーンは何事にも気楽な兄と違い、島一番の読書家で、何事もソツなくこなす有能な女性だから、パードリックが頼りにしていたのは当然。パードリックからの相談を聞いたシボーンは、「しばらく様子を見るよう」アドバイスしたのは適切だ。

ところが、コルムからの絶交宣言にも、絶交の理由にも納得できないパードリックは、司祭の力を借りてコルムとの友情を取り戻そうとしたが、これが逆効果だったらしい。そのため、頑なな態度を崩さないコルムは、「これ以上、お前が俺を煩わせたら、自分の指を1本ずつ切ってくれてやる。お前が話しかけるのをやめるか、俺の指がなくなるかだ」という恐ろしい最後通告を突きつけてきた。中年男の仲違いも、ここまでくればすごいものだ。親友同士の2人が仲違いしたという噂は、全員が顔見知りである住民たちの間にたちまち広まり、パブの中をはじめ、島のあちこちで不穏な空気が流れ始めることに。

『ノースマン 導かれし復讐者』（22年）には、ビョークが扮するスラブ族の“預言者の女”が登場したが、本作にも不気味な笑いを湛える“預言者”のような老婆が登場し、「イニシェリン島にふたつの死が訪れる」と不吉な予感をつぶやく事態に発展していくので、それにも注目！どうやら、この予言は、イニシェリン島に語り継がれている、人の死を予言する精霊を受け継いでいるらしい。なるほど、なるほど。だから、本作の邦題は『イニシェリン島の精霊』なのだ。

### ■なぜ親友に？本来は水と油？ひょっとして一方は天才？■

本作は、冒頭にイニシェリン島の概要を示した後、いきなり絶交宣言から始まる。本作のパンフレットにはマクドナー監督のインタビューがあり、そこで彼は、パードリックとコルムが仲違いを始める前のパブの日常が描かれていない理由について、「脚本を執筆中のある時点では、たしかに回想シーンを検討しました。でも10分でやめました。やはり、最初から争いの核心に迫りたいと思ったのです。」と述べている。

他方、本作のパンフレットには、①加藤拓也氏（脚本家／演出家／監督）の「複雑な人間関係を、ただ受け止める。無駄な会話は一つもない“王道”」、②高橋諭治氏（映画ライター）の「死神の視点とともに語られる、不条理な諍いのミステリー」、という2つのレビューがあるので、これは必読！

本作を見ていると、パードリックはもともとおしゃべりな男だということがわかるから、

知的で冷静な妹のシボーンと話す時も、圧倒的にパードリックのおしゃべりが多かったはず。それと同じように、かつてパブで親友の2人が過ごしていた時も、その時間のほとんどはパードリックがバカ話をし、コルムはそれを聞き相槌を打っていただけに違いない。回想シーンがなくても、親友だった2人がパブで過ごす風景は、誰でもそんな風に想像することができる。パードリックは、“人の良い男”だと言えはたしかにそのとおりだが、別の言い方をすれば、諦めが悪く、自分の欠点を容易に認めない、アイルランドはもちろん、世界中どこにでもいる、ごく平凡な男。それに対し、残された人生を有意義なものにするため作曲と思索に没頭したい、という絶交の理由を明示するコルムは、ひょっとして本当は天才かも？私はそんなふうと思うのだが、さて・・・？

小さい貧しい島の出身ながら、世界帝国を築いた男、それが、コルシカ島出身でフランス陸軍士官となり、やがてフランスを統一、さらにはヨーロッパ全土を征服した英雄ナポレオン。パードリックと絶交した後、その絶交宣言理由で述べたとおり、作曲と思索に没頭するコルムの姿を見ていると、ひょっとしてコルムもナポレオン並みの天才・・・？そう考えると、もともとこの2人は親友になれるはずはなく、本来は水と油だったのでは？

### ■□■そこまでやるか！そんなバカな！いやいやそれはなし！■□■

日本のヤクザの掟には、ミスをしでかした場合の責任の取り方として、“指を詰める”という行為がある。しかし、アイルランドのヤクザ組織にはそんな掟はないはずだ。しかし、なぜコルムは、パードリックに対して、「これ以上、お前が俺を煩わせたら、自分の指を1本ずつ切ってくれてやる。お前が話しかけるのをやめるか、俺の指がなくなるかだ」という恐ろしい宣言をしたの？もっとも、「それはハッキリ！」と思うはずだが、コルムの口調にはそれなりの決意が示されていたし、口の軽いパードリックに対して、気真面目なコルムなら、ひょっとして・・・？

本作では、そんな期待（心配？）の中でも、パードリックは、コルムからの絶交宣言はエイプリルフールでは？と考えて確認に行くノーマルさを見せるから、こりゃヤバい。本作中盤では、パブを舞台に、コルムの家を舞台に、さらに妹のシボーンや隣人のドミニクたちのさまざまな助言の中で、パードリックがコルムの絶交宣言に対して、さまざまなアプローチを繰り返していくので、それに注目！

そんな状況下、まさかまさか！ある日、パードリックの家の前にやってきたコルムの右手から、ドアに向かって何かが投げつけられたが、それはナニ？ひょっとして、それはコルムが自ら切り取った自分の左手の指？そんなバカな！？いくら何でも、それはなし！

### ■□■どこまでエスカレート？こりゃすごい！精霊の役割は？■□■

本作はスリラーでもなく、ホラーでもない。中年男2人の仲違いから始まる物語の中で、イニシェリン島の精霊を描く文芸作品だ。ところが、パードリックのもう1人の友人（子分？）で、シボーンに対して好意を持っている上、パードリック以上に人の良い若者ドミニクが死んでしまう展開を見ていると、本作にはスリラー色が出てくる。さらに、時々登

場し、さまざまな予言をする老婆の姿を見ていると、ホラー色も加速していくことになる。それをまともな世界に引き戻しているのが、常に常識的かつ知的なシボーンが存在だが、本作のストーリーの核であるパードリックとコルムの対立はどこまでエスカレートしていくの？コルムが自分で切り取った自分の指をパードリックの家のドアに投げつけたにもかかわらず、諦めの悪いパードリックが更なるアクションを繰り返していくと、コルムの左手の残りの指4本は・・・？

それを目撃するシークエンスまで進むと、本作はまさにホラーだが、更に、それを食べてしまった、パードリックが愛してやまないロバのジェニーが死んでしまうと・・・？そこから徐々に露骨になっていくパードリックの狂気の姿は更にすごいことになっていくので、それに注目！

本作の後半からクライマックスにかけては、まさにこれはホラー！？そんな色彩を強くしていくので、それに注目！しかして、イニシェリン島の精霊の役割は如何に？それを含めた本作の結末は、あなた自身の目でしっかりと！

2023（令和5）年2月10日記